

令和高島未来塾



塾長 飯島 静子

■ 塾長コメント ■

高島は、世界文化遺産としての歴史、住む人々によって培われた文化、素晴らしい豊かな自然や景観を有する離島です。高島の多くの方々とのふれあいの中、本には書かれていない、住んでいた人だけが語れる貴重な歴史や文化があること。権現山からの軍艦島、五島列島、野母半島の素晴らしい景観。離島としての特徴的な生態系等があること。それらが新たな高島の魅力、“宝”ひいては長崎市民の“宝”であるとの思いで活動しております。高島の未来に向けて高島の人々と一緒に、新たな魅力を発見し、交流し、次世代へ継承しようと歩き出しています。

■ 塾の目的 ■

当塾は、令和3年度長崎伝習所の卒業塾として、世界文化遺産の構成遺産の一つ「高島炭坑・北溪井坑」がある高島の活性化を目指して、主に3つの活動を行いました。

■ 塾の研究・活動内容 ■

1. 「高島の今 in 2021 絵画・写真展 at 高島」の開催

昨年長崎市で開催した絵画・写真展を、地元の高島の人々にも見て頂きたいとの思いで、高島地域センターホールで「高島の今 in 2021 絵画・写真展 at 高島」を開催しました。

ポスターの掲示、広報掲載、自治会、高島小中学校、幼稚園、病院、福祉施設、商店街、郵便局、バス会社、寺院への案内等の活動を経て、6月14日～18日の5日間です。芳名帳によると大人18名、学童6名、幼稚園児6名、合計30名の来場を戴きました。

幼稚園児、小学生の感想が残されています。「知っている所が、観れてうれしかった」「海の写真がきれい」「絵の中に、ねこをみつけた」、「本物みたい!」「家の近くの場所だ!」「すごいね」等と。

「やっぱり高島がいいね」と絵や写真にまつわる歴史を語ってくれた高齢の方の話も印象的でした。



鑑賞する幼稚園児
高島地域センター広報紙
「タカシマ タカラジマ」7月号

2. 「古地図・古写真片手に高島・島めぐり」

「明治日本の産業革命遺産」を有する高島の自然・歴史・文化を、長崎市民、島民と一緒に語り合い、高島の未来に繋がる第一歩として、「古地図・古写真片手に 高島・島めぐり」ツアーを11月6日に開催しました。

高島関係の古地図・古写真の豊富さは抜群です。時の流れを経て、今何が美しいか、何が大切か、何を残すべきか、多くの人と見つめてみよう企画しました。「広報ながさき」で公募した結果、51名と多くの申込があり、最終的には先着の23名のツアーとなりました。ガイドブック片手に、徒歩と島内循環バスでの島めぐりをする形式としました。

当日途中から雨模様となり、帰路のコースを変更して最終目的地の「高島石炭資料館」

にたどり着きました。資料館のなかで、島の人の生の「語り」を伺う企画としました。炭鉱時代の島の生活の「水との戦い」「交通手段としての船、港の話」「石炭の話」「盆踊り・精霊流し」等のお話が始まりました。全員が自然と輪になって床に張られた高島全島の写真を足元に見ながら和やかな雰囲気でも聞いていました。皆が一つになった感動の瞬間でした。当日のコースを再確認し、当時の生活に思いをはせながら、1日のツアーを締めることができました。アンケート結果から“初めて来た”人がほとんどで、“楽しかった”“また来たい”“島の人々から生の生活の声が大変よかった”と好評の声が多く聞かれました。将来への活動の足がかりとなりました。



「古地図・古写真片手に高島・島めぐり」記念写真及びポスター、ガイドブック

3. 「高島の海岸植物散策会」開催

長崎県には多くの島々があり、長崎市には高島と池島の二つの離島があります。かつて炭鉱があり、ボタ山、埋立地そして労働と生活の場であった高島にどんな海岸植物があるのか、またあったのか、どんなデータが記録されているか探してみました。高島の海洋植物に関する報告をみつけることはできませんでした。

そこで、長崎県植物研究会の方々のご協力を得て、秋に、塾生、島民、研究会の人だけの予備調査をすることになりました。島を

めぐって観察できた植物とそのコースを「高島の海岸植物散策会」として掲載することにしました。離島としての海浜植物、砂地の植物、埋立地の植物、飛島樹叢、内陸地の植物を観察し、さらに長崎市のレッドリスト、特定外来生物に該当する植物があるかを観察ポイントとしました。

結果、塾生が、研究会の方々の指導下で観察確認できた植物は45種類。絶滅危惧Ⅱ類（VU）のハマボウ、準絶滅危惧（NT）のハマオモト、ハマボウフウ、特定外来生物オオキンケイギクを確認することができました。（H30年長崎市レッドリスト、H27年長崎市外来種リスト、長崎市HP掲載）



「高島の海岸植物散策会」マップ

■ 塾活動の成果 ■

一番の成果は、高島の人々と一緒に「絵画・写真展 at 高島」や「高島・島めぐり」ツアーを開催し、多くの長崎市民と高島の歴史、文化、自然をより深く知る第一歩を踏み出したことです。小冊子「タカシマ・シマめぐり」の発行によって多くの長崎市民との情報の共有・継承手段もできました。今後も、高島の“宝”ひいては長崎市民の“宝”を発掘し、環境保護、SDGs等の新たな視点を加え、高島の活性化を目指して活動していきたいと思います。